最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

はじめましてを何度でも

厚木市立南毛利小学校
四年　白須乙羽

九十七才のひいおばあちゃんがわたしのじまんです。絵がとてもうまくて、手先が器用でとてもやさしいひいおばあちゃんです。いっしょにご飯を食べに行ったり、よく遊んだりしていました。しかし、コロナが流行し、会えなくなってしまった数年の間にひいおばあちゃんの世界が変わりました。ひさしぶりに会ったひいおばあちゃんは、わたしのことをわすれてしまっていました。にんちしょうと言うそうです。

「あれ、このおじょうちゃんはだあれ。」

と言われた時、わたしの知っているひいおばあちゃんではないように感じました。とてもショックでした。でも

「ひいおばあちゃん、おとはだよ。」
と言うとひいおばあちゃんはいつものやさしいえがおで、
「おとはちゃんおかし食べる。」
とおかしをくれました。その後、ひいおばあちゃんがデイサービスという所で作成してきたという、ぬりえを見せてくれました。色使いがとてもきれいで、ていねいで、紙から出てきそうなくらい上手でした。何度もきれいな絵をかいているひいおばあちゃんには、何回絵をかいてもわたしは勝てません。
　それから、ひいおばあちゃんの日課であったおはかまいりは、わたしたち家族が行っています。そして、ひいおばあちゃんからは、わたしはぬりえを見せてもらって、絵の勉強をしています。会うときはいつも自己紹介からです。でもすぐにまた仲良くなります。ひいおばあちゃんの心は変わらないからです。ひいおばあちゃんがやるのがむずかしくなった事は、わたし達でやりたいと思います。だから、もっとわたしに絵を教えてもらいたいです。やっぱりひいおばあちゃんはわたしのじまんです。